

西教寺報

107号
 仏歴2553(2009・平成21)年
 9月23日発行
 呉市中央7-7-13
 西教寺蔵本通支坊
 TEL 0823 (21) 2798
 FAX 0823 (21) 2795
 www.saikyoji.net
 郵便振替番号
 01340-3-29117
 宗教法人西教寺

念佛成仏これ眞宗

岩崎正衛（住職）

『西教寺報』はどうか

とるんですか？」とのご門徒の声に、本当に胸の痛む思いです。なにも、編集主任である新発意の忙しさをしている、「早うしんさいや」とも云えず、じりじりしておりますが、このたび、ようやく機縁熟して第一〇七号発行のはじとなりしました。

さて、京都のN和上が、「私ども浄土眞宗門徒は、阿弥陀さまのお浄土に生れ

て、さとりは開いても、阿弥陀さまには成らないのだ」との新説を主張され、それについて私（住職）が、疑問を投げかけてから、早や五年が経ちました。私はその間、ガンの手術を二回もしましたが、この件に決着をつけなければと一念で、今日まで生きて来ました。そういう意味から、N和上は、ありがたい反面教師であります。

そのN和上が、この春発行された『真宗』119・120合併号に、私の説（お浄土に生れて阿弥陀仏に成る）に対する反論が、掲載されましたので、私は早速『中外日報』紙上に再反論を、書きしました。その荒筋をご紹介します。その荒筋をN和上説に依りますと、①法蔵菩薩の願行のご苦労を経て、成られた本来の阿弥陀仏と、②岩崎が主張する、我々の先達が成り、また私共も、やがて成らせて

いただく阿弥陀仏との二種類がある。

②の阿弥陀仏は、N和上は認められませんが、岩崎は認めている。私共は願行不具足、地獄必定の悪凡夫ですから、私に代っての法蔵菩薩のご苦労があ

り、その功德のまるまるをいただくのでありますから、今更どうして、我々の先達が成り、また私どもが阿弥陀仏に成るのに、私どもの側からの發願修行が必要なのでしょうか？N和上は「真宗教義においては、



初参式・入園入学奉告に参詣された植坪さんご一家。

紙面

念仏成仏これ眞宗 住職敬白（岩崎正衛）… 1
 帳場・世話人… 2
 中四国仏婦大会に参加して… 3
 守ろう九条音楽と講演の集い… 3
 御礼… 4
 2008年度報恩講… 5
 みんなでスキーに行きましょう… 7
 進徳日曜学校報恩講… 7
 敬悼… 森ユカリさん… 7
 敬悼録… 8
 初参式・入園入学奉告式… 9

合同花まつり with くれ環境市民の会・広島ガス… 10
 三津田支坊花まつり… 11
 第三回眞宗カウンセリングワークショップ… 11
 降誕会一親鸞さまのご誕生日に… 12
 高林坊と湧永庭園… 13
 壮年会御影堂参拝京都口ハスな旅… 13
 安芸南組 750 回お待ち受け法要… 13
 ほとけの子夏の集い… 14
 おすすめの本「この世界の片隅に」… 14
 ビルマの豎琴は音もなく⑦（斉藤久仁子）… 15
 白道会大会（池田行信先生）… 16

一〇月二日より通り報恩講が始まります。今年もいっしょに、大切に報恩講をお迎えしましょう。

現生に仏因円満の名号を領受する事によって、成仏が決定し（入正定聚）、当来無上涅槃の極果を証する」と、おっしゃるのです。が、どうもこの人は、願力によって「成仏」が決定し、「無上涅槃の極果」を証するとは『阿弥陀仏』になることではない。との主張らしいですね。とんでもない！「無上涅槃の極果」の人格的表現が、「阿弥陀仏」であって、両者はイコールですよ。

私どもの先達は、法蔵菩薩のご苦勞の象徴である「南無阿弥陀仏」のおいわれを、いただくことによって、お浄土に生れて阿弥陀仏のさとりを、開いたのであります。ところが、N和上はこうおっしゃいます。「岩崎が云う②の阿弥陀仏は、法蔵菩薩のご苦勞を経ずして成った阿弥陀仏だから、衆生摂化はできない。衆生摂化のできないような阿弥陀仏を、親鸞が考えるわけがない」云々と。これがわからんのですよ。法蔵菩薩のご苦勞を、自発的に、ようしない私らのために、法蔵菩薩のご苦勞があり、そのご苦勞のまるまるをいただくのですから、阿弥陀仏に成ってから、衆生摂度が出来ないなんて、どこを押せばそんな音（ね）がでるのですかね？

あるおばあさんが、おっしゃいました。「お浄土に生れて、みんな阿弥陀さまになるんじゃないと、あとかから私がお浄土に生れても、どれがうちのおじいさんか、わからんのんじゃないですか？」と。私は云いました。「おばあさん、心配せんでもええですよ。おじいさんは、阿弥陀さんになつたら、すぐに菩薩の位に降りて、あなたのおかげで、あなたがたをとって、衆生摂度をして下さるから、あなたがたが浄土行つて、すぐ分かりますよ」と。



2009 年修正会ご流盃の様子。

このほど改訂せられた『浄土真宗の教義』の中の「教義」に『阿弥陀仏の本願力によって信心をめぐまれ、念仏を申す人生を歩み、この世の縁が尽きるとき、浄土に生れて仏となり、迷いの世界に還つて人々を教化する』とあります。まことに、格調高い文章ですが、この中の「浄土に生れて仏となり」の「仏」がまさしく「阿弥陀仏」であります。「阿弥陀仏に成る」とは、あまりにもつたない話なので、よく『弥陀同体のさとり』を開かせていただくというような表現が、用いられます。その心持ちは大切ですが、決して阿弥陀さまとは別の、なにかになるのでは、ありません。

とにかく、お浄土に生れて阿弥陀さま、つまり宇宙大の人格者にさせていただくのですから、私どもはこの喜びをもととして、この世のいのちのある限り、歓喜と慚愧の思いから「世のため人のため」に、「ご報謝にはげまねばならない」と思います。



ご紹介が遅くなったのですが、蔵本通支坊帳場の松野静雄さんが体調を崩された二〇〇七年十一月より、熊本州宏さんがお手伝いくださっています。また、畛原地区世話人として、中岡清子さん、向田笑子さんから恵木廣子さん、西村頼子さんに交代しました。惣付地区は板倉安子さんから板倉由喜枝さんに、森山地区は森ユカリさんから森みどりさん、郷町地区は木村綾美さんから村上万里子さんに交代しました。



森みどりさん



板倉由喜枝さん



西村頼子さん



熊本州宏さん

し上げます。新世話人の皆さん、どうぞよろしく願います。

旧世話人の皆さん、長年のご報謝、心よりお礼申